

Hoxsin Weekly Report

～ 成長見通しの下方修正 ～

7 November 2008

アメリカ 求められる「変革」

欧州 さらなる緩和へ

アジア 「45日ルール」

オセアニア 追加利下げ

特集 スイス：独特の金融調節

無料セミナー全国出張サービス開始 <http://www.dragonfx24.com/seminar/index.html>

Presented by HOXSIN BUSSAN

～ 成長見通しの下方修正 ～

1. アメリカ

- 求められる「変革」 …… 1
 - ISM指数が示唆するリセッション入り …… 2
 - 大塚亮のテクニカル分析
(USD/JPY・EUR/USD) …… 3
- (文責 ヨッシー牧田)

2. 欧州

- さらなる緩和へ …… 4
 - 大塚亮のテクニカル分析
(EUR/JPY・GBP/JPY) …… 5
- (文責 大塚亮)

3. アジア

- 「45日ルール」 …… 6
- (文責 大塚亮)

4. オセアニア

- 追加利下げ …… 7
 - 大塚亮のテクニカル分析
(AUD/JPY・NZD/JPY) …… 8
- (文責 ヨッシー牧田)

5. 特集: スイス

- 独特の金融調節 …… 9
 - 大塚亮のテクニカル分析
(CHF/JPY・USD/CHF) …… 10
- (文責 ヨッシー牧田)
- (編集・構成 内田悟志)

7 November 2008

Hoxsin Weekly Report

米国

求められる「変革」

「カナダ合衆国」と
「ジーザス・ランド」

4日に実施された大統領選挙は、民主党のバラク・オバマ上院議員が全米で538人の選挙人のうち340人以上を獲得し、対立候補であった共和党のジョン・マケイン上院議員に大差をつける圧勝で幕を下ろしました。米国では2000年、2004年の大統領選挙を通じて、民主党が強いリベラルな「青い州」と、共和党の地盤である保守的な「赤い州」の間に深い断絶が出来てしまったことが指摘されてきました。2004年の大統領選では、民主党のケリー上院議員が優勢に立った北東部と西部の州はカナダと地続きで、中部・南部のブッシュ大統領が優勢に立った州を取り囲むようにしており、民主党の支持者は米国は「カナダ合衆国」と「ジーザス・ランド」に分断されてしまったと揶揄しました。

分裂の危機

今年の大統領選挙でも、宗教的な価値観において、「保守」と「リベラル」の間に大きな分裂が出来てしまう可能性があります。特にその危険性が高まったのが、9月上旬の共和党大会において、マケイン上院議員がアラスカ州のサラ・ペイリン知事を副大統領候補に抜擢したときです。離婚歴もあるマケイン上院議員は、共和党の中では、どちらかという「リベラル寄り」と見られており、共和党の支持層の中でも、人工妊娠中絶や同性愛に絶対反対の姿勢を示すキリスト教保守層にはあまり人気がなかったのです。宗教的にも超保守派で、人工妊娠中絶や同性愛に断固反対の立場を取るペイリン知事を副大統領候補に掲げることで、「マケイン&ペイリン」の支持率は、一時「オバマ&バイデン(民主党の副大統領候補)」の支持率を上回るまでになったのです。

経済危機が与えたもの

この宗教的価値観による「分裂」の危機は、9月15日起きたリーマン・ブラザーズの経営破綻、連邦破産法第11条適用(リーマン・ショック)といった一連の経済的危機により回避されたという指摘が出来ましょう。この期に及んで「米国のファンダメンタルは強い」と繰り返す史上最高齢の大統領候補と、外交経験の全くない宗教保守の女性副大統領候補のコンビか、感動的な演説の出来る大統領候補と、パツとしないが上院議員として経験豊富な副大統領候補のコンビを選択するのであれば、勝負は初めからついていたといっても過言ではないのかもしれませんが。

“We can change.”

もし、オバマ上院議員がこの大統領選挙で敗れていたとするならば、「黒人は米国大統領になれない」、「米国は宗教的(キリスト教的)価値観を何より大事にする」...等々のネガティブなイメージを外国に対して発信することになり、そして何よりも多数の米国民がその決定に対して失望したのではないのでしょうか。2004年の大統領選挙でもケリー上院議員の敗北により、そのような失望感に襲われた民主党員や無党派層が少なからず存在した中で、今回、オバマ上院議員が圧倒的勝利を収めたということは、オバマ上院議員の選挙戦でのキャッチコピーにある、“We can change.” “Yes, we can.”という自信を米国民に与えるものであったということが出来ましょう。

山積みの課題

ただし、次期大統領に選出されたオバマ上院議員が、勝利演説にて「1年、いや1期(4年)をかけてもたどり着かないかもしれない。」としているように、米国の抱えている課題は非常に困難なものばかりです。経済問題だけを挙げてみても、喫緊の対策として行なっている金融機関に対する資本注入や、公約として掲げているように中流以下の所得層に対する減税や社会保障の拡大と並行して、長期的な取組として、財政赤字・経常赤字の「双子の赤字」を解消する必要があります。米国経済・ドルの信認が低下している現状をオバマ次期大統領は認めなければならないことでしょう。



米国

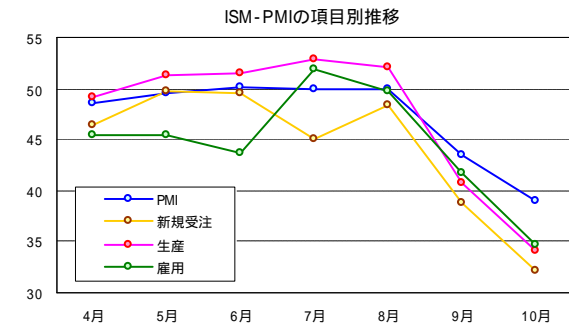
ISM指数が示唆するリセッション入り

26年ぶりの低水準

ISM (米供給管理協会) が米東部時間3日10:00 (日本時間4日深夜零時) に発表した、10月の製造業業況指数 (PMI) は実に驚くべき内容となりました。前月9月の43.5という結果および41.5という事前の大方の予想から大きく下ブレし、**38.9という約26年ぶりの低水準を記録**したのです。ISM-PMIIは、50を上回ると景気加速、50を下回ると景気減速を示唆することで知られていますが、さらに41を下回ると、本格的な景気後退 (リセッション) を示唆するといわれ、**10月の指数は米国経済の後退を指摘する最も早い経済データであったのかも知れません。**

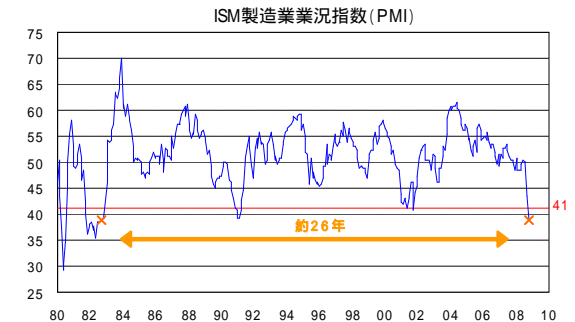
国際商品市況は下落したものの…

ISMPMIを構成する指数の中で、特に重要な「新規受注」「生産」「雇用」の3つの指数は、前回9月、そして10月と**2ヶ月連続で3指数が揃って急速に低下 (悪化) しています。**9月のリーマン・ブラザーズの経営破綻 (米連邦破産法第11条「チャプター11」の適用申請) を発端とした金融市場の混乱が、10月に入ってから实体经济に確実に波及してきたということでもありましょう。需要の減退観測による原油価格・国際商品価格の大幅な下落はほとんど唯一の明るい材料でしたが、足元で進行したドル高による国際競争力の低下は、海外経済状況の悪化と併せて、**輸出の大幅な減少をもたらしているようです。**



26年前との比較

1982年9月に38.8を記録して以来の低水準となったISMPMIですが、26年前の1982年当時は、第2次オイル・ショックの後で、1980年に始まったイラン・イラク戦争の真っ只中であり、この年の2月に石油パイプラインの封鎖があるなどして、米国では原油価格の急激な上昇により (インフレ下の景気後退という) スタグフレーションが発生している状況でした。原油価格が大幅に低下してもなお景況感の改善が見られず、**国内の需要減退によるデフレ懸念が囁かれている現在の状況**とはかなり異なるのです。



「債務超過」に陥った米国経済

さらに26年前と比較して異なる点として指摘できるのは、1980年代を通じて、米国は世界最大の債権国から債務国に転落 (1986年に純債務国に転落) していることです。**1982年当時は莫大な対外債権を取り崩すことが可能**であり、第2次産業といわれる製造業が弱くなくても、小売・サービス、あるいは金融業などの第3次産業の興隆によって、GDPの約7割を占める個人消費を刺激し、結果として製造業のテコ入れにつなげることも出来ました。しかし、「世界最大の債務国」になってしまった現在、これまで信用 (借入) に頼ってきた個人消費に急ブレーキがかかっている中、企業部門においても、ドルの信認低下により海外投資家による資本注入・資金援助に多くを期待することが出来ません。そんな中において、**米国の製造業の「復活」は容易なことではない**と指摘出来ましょう。

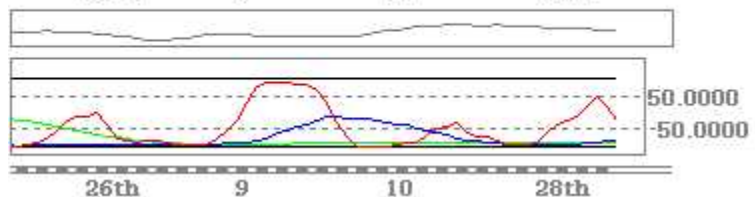
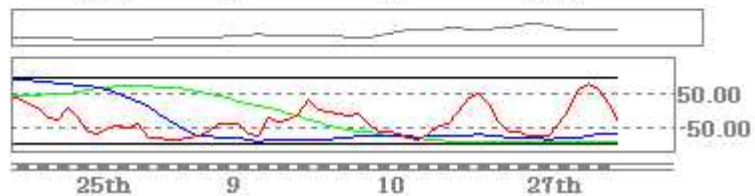


テクニカル

USD/JPY & EUR/USD

～ USD/JPY : 94円が目安 ～

USD/JPYは戻りっぱいの局面から下落に転じる展開となっています。100円を回復したことで達成感が出ていた上、バンドの中心線を意識しての下げ局面となっています。形としては下落トレンドに入っていることからさらなる下値を追う展開という事が出来そうです。目先の目標となる価格は94円ちょうど水準であり、バンド幅の動きが小さいことから、この水準で止まる可能性が高いでしょう。というのも、RCIでみると短期線が下落基調となっている一方で、中期線がやや底打ち態勢に入っているように見えることから直近の安値を抜ける可能性は低く、目先は下落してもRCIの短期線の底打ちを眺めて上昇に転じる展開となりそうです。



緑:52日線 青:26日線 赤:9日線

～ EUR/USD : 意外と底堅い ～

EUR/USDはバンドの中心線を意識しての展開となっています。バンド幅の動きを眺めて大きな動きにはなっていませんが、バンドの中心線を突破する事が非常に難しい状況となっていることから、先行きに懸念が生じる場所です。1.30ドルの達成感も大きく、上値は重くなっています。RCIで見ても短期線が天井を打って下落してきており、下値を追いそうな局面と言う事が出来そうです。ただ、意外と底堅い状況も見受けられることから、下落基調のRCIの短期線が底打ちすればバンドの中心線を突破する可能性も出てくるでしょう。ただ、直近の安値水準を突破すると一気に基調が崩れる可能性もあり、その点には注意しながらの展開が続きそうです。



利下げ断行

木曜日にECBとBOEが政策決定委員会を開催しました。金融政策に対する大方の市場の予想は米国に合わせる形で0.50%の利下げを行うのではないかと、いったものでした。しかし、中にはECBが1.00%、BOEに至っては1.50%の利下げを行う、といった予想も飛び出すなど、中央銀行に対する大幅利下げ期待の高さをうかがわせるものもあり、市場の緊迫感が高まっていました。結果としては**ECBは予想通りの0.50%だったものの、BOEは1.50%の利下げを断行**し、ユーロ圏と英国の金利水準が逆転するという状況になってしまいました。さらにスイスまで緊急利下げを行うなど欧州各国の中央銀行は金融緩和に追われる状況となりました。

ECBの見通し

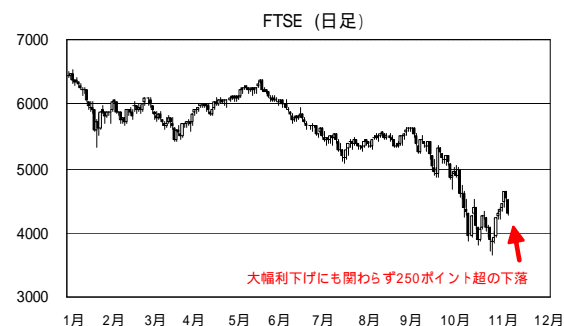
各国の中銀はそろって経済の先行きに対する懸念を表明し、通貨の下落に関わらず原油などの商品価格の下落を受けてインフレ率は次第に低下していくだろう、との見通しを示しています。ECBのトリシェ総裁は、今回の会合で0.50%の利下げと0.75%の利下げが検討された、とのコメントを発表しています。さらにフランスのラガルド財務相は今回の利下げに対して、まだ十分ではなく、年内にもう一度0.50%の利下げを行うべきだ、と発言しています。次回のECB理事会は12月4日の予定となっており、これらのコメントから考えると**0.25%~0.50%の利下げが行われる事が予想**される局面となっています。

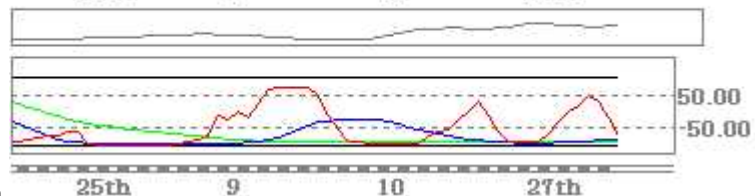
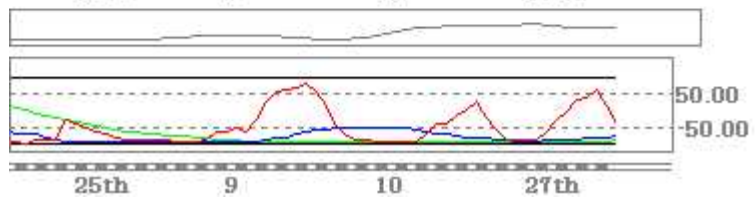
さらなる利下げへ

一気に1.50%もの金利を引き下げたBOEですが、かなり先行して利下げをした感は否めません。米国のFF金利が1.00%であり、しかも市場はさらに0.50%の利下げを催促する展開となっていることから英国としてもその動きに追随する可能性もあるわけです。緊急の利下げを発表したスイスも、世界的な金融緩和局面において、現状の金利水準を維持すること自体がリスクとなっており、今後さらに利下げを断行する可能性が高まっているという事が出来そうです。現に**IMFが主要国は来年リセッション入りすると指摘**し、さらにユーロ圏、日本、中国、米国の成長率見通しを引き下げるとしています。世界的な景気後退に対して、中央銀行としても手をこまねているわけにはいかないという状況であると言えるでしょう。

先行きに懸念も

ただ、これほどの利下げを断行したにもかかわらず、英国の代表的な株価指数のFTSEは250ポイント超の下げを演じています。利下げによる下支え効果が薄れている状況になっています。しかし、効果は限定的であっても中央銀行は利下げを実施せざるを得ず、**異常に低くなった金利水準が世界の経済を蝕む可能性**が徐々に高まってきているという事が出来るでしょう。





緑:52日線 青:26日線 赤:9日線

~ EUR/JPY : 達成感 ~

EUR/JPYはバンドの中心線で抑えられる展開となっています。130円を突破した達成感からの下落局面であり、形はあまり良くないという事が出来そうです。もしばらくは下値を探る展開となりそうです。バンド幅は大きな動きになっていないことから、大きな動きが誘発されにくい局面という事が出来、直近の安値水準の突破は難しそうです。ただ、RCIで見ると、短期線が下落基調にあり、中期線が下値で這っていることから調整局面の終了が示される展開と言えそうです。下値のメドとして価格的には120円でバンドの下限を考えるならば117円前後の水準がポイントになりそうです。そこでとまれば再度バンドの中心線を試す展開となるでしょう。

~ GBP/JPY : 下値のメド ~

GBP/JPYはバンドの中心線を意識しながら、そこに届くことなく下落に転じる状況になっています。状況的には調整上昇力の弱さを感じられるところであり、先行きに対する警戒感も強まっている状況と言う事が出来そうです。RCIで見ると、短期線が下落基調を続け下値圏に入るなど、かなり先行して下げてきていることが窺えます。この短期線が底打ちし、上昇に転じたら意外と早く基調を回復する可能性も残されているという事が出来るでしょう。ただ、RCIの中期線は下値圏で這っていることから、大きな流れはまだ下向きであり、目先は下値を追う展開という事が出来そうです。下値のメドは140円がポイントになりそうです。直近の安値水準にかなり迫ることも考えられるので、注意したいところです。



急激な戻し

日経平均が一時バブル後最安値を更新し、6000円台に突入しました。そこから急激に買戻しが進み、一週間もしないうちに2000円上昇する展開となっています。為替相場においてセリングクライマックスを迎えて、そこから戻しを演じているのと非常に似た動きになっていることは事実であり、安値拾いの動きが進行しているという事が出来るでしょう。外貨を購入できる店で、急激な下落局面でドルやユーロが売り切れたことと全く同じ事態が証券市場に起きており、**個人が証券会社に口座を開設し、株式市場に参入するといった流れ**が起きています。現金への回帰が進行する中で、次の段階として、強い現金で安い株価を買い拾うという展開となっている状況です。

『45日ルール』

ただ、確かに回復局面にあるものの、先行きに関しては大きな山場があることもまた事実です。それは『45日ルール』に伴う決済が急速に進行するのではないかと、という懸念です。『45日ルール』とはヘッジファンド業界の慣行で、投資家の解約に際して決算期末の45日前までに通知を行うように求めているもので、多くのヘッジファンドが12月に決算期末を迎えることから、解約期限は今月の15日に当たるわけです。つまり、15日に向けて解約が殺到した場合、ヘッジファンドは手元資金を厚くする必要に迫られ、それに伴う株などの換金売りがかさむ展開となるわけです。実際、今回の株価の下落はヘッジファンドの換金売りが大きな要因の一つとして指摘されており、その点からしても15日を通過するまでは波乱要因として意識されるべきでしょう。逆に15日を過ぎれば、換金売りの流れはひとまず収まるとの思惑もあり、どちらにせよ**今週から来週にかけて非常に注目**される局面という事が出来るでしょう。

上値は抑えられる?

最近の株価の戻りによって市場心理は若干改善されてきているとはいえ、ヘッジファンドの運用資産残高は去年と比べ減少しており、拡大を続けてきたヘッジファンドにとっては危機的状況を迎えているという事が出来るわけです。著名投資家のジョージ・ソロス氏が**ヘッジファンド業界は半分から1/3程度にまで縮小してしまうだろうとの予想**をしていますが、現状のような資金の流出が続けば、あながち非現実的な予想ということはおそらく出来ません。となると、解約や解散により株価の下落圧力が強まる可能性が高いと言えるでしょう。仮に今月の15日を無事に通過したとしても、株価の先行きに対する懸念が強い中で、換金売りによる戻り売り圧力が強まることになりそうと、株価の上値を抑えることになりそうです。とりあえず10000円を目指す展開にはなっていますが、状況はまだ楽観を許さない局面が続くということが出来るのではないのでしょうか。



3ヶ月で2.00%

事前の見方は
せいぜい0.5%の
利下げ

協調行動

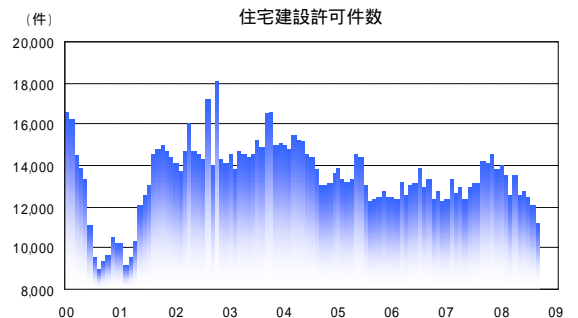
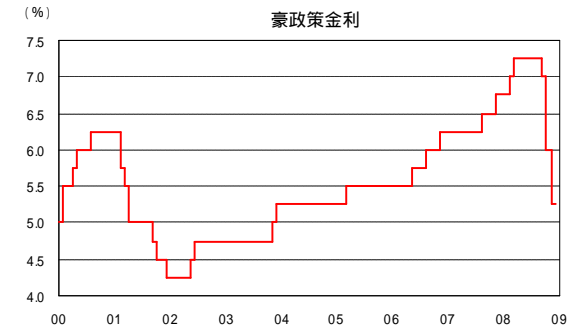
更なる追加利下げの
可能性も...

RBA(豪準備銀行・中銀)は4日の理事会にて、政策金利であるオフィシャル・キャッシュレートをそれまでの年6.00%から75bp(0.75%)引き下げ、年5.25%とし、翌日付で適用することを決定しました。RBAは9月の理事会で0.25%の利下げを実施して以降、10月、そして今回11月、と3回連続で利下げを実施しています。現在の利下げ局面に入る直前8月の政策金利は年7.25%であり、**この3ヶ月の間の利下げ幅は合計で2.00%にもなります。**

RBAは2~3%のインフレ(物価上昇)目標を掲げており、先月下旬に発表された、今年第3四半期(7-9月期)の消費者物価指数が前年比5%増加という高水準にまで上昇している中で、大幅な金融緩和(利下げ)に踏み切るのは難しいのではないかと考えられていました。また、先月24日の欧州市場や、27・28日のオセアニア市場において、豪ドル(AUD)相場を支援する目的でAUD買い・米ドル(USD)売りの為替介入を実施していたため、キャリートレードの巻き戻しにつながるRBAの大幅追加利下げはAUD買い介入の政策と矛盾してしまいかねず、**利下げ幅は0.50%に止まるという見方が主流でした。**0.75%の追加利下げ決定は衝撃をもたらしたといえます。

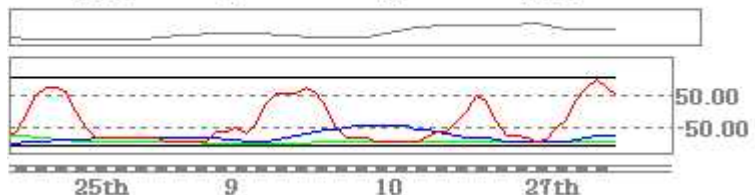
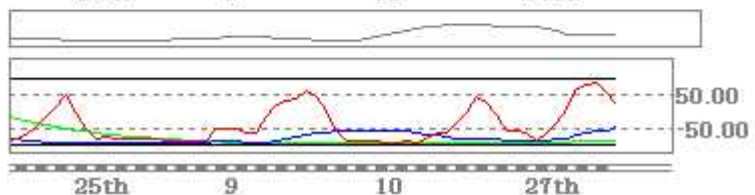
RBAが大幅な金融緩和に踏み切った背景には幾つかの要因が考えられます。中でも、先月の定例FOMC(米連邦公開市場委員会)にて、米国の政策金利が史上最低水準の1.00%まで低下し、さらに月末の日銀金融政策決定会合では約7年ぶりに利下げに踏み切り、欧州中銀(ECB)、英中銀(BOE)も今月の理事会、金融政策委員会にて、追加利下げを実施するとの観測が強かったこと(実際に利下げを実施)が挙げられます。**日米欧との政策協調という観点から、RBAにも通常よりも大きい政策金利の引き下げ幅が求められた**ということが考えられるのです。

もちろん、**豪州経済が大幅利下げを必要とするまでに悪化していた**ということもありましょう。株価指数は急落し、先月28日には終値ベースでの今年に入ってから安値を更新しました。さらには、3日に発表された9月の住宅建設許可件数は前月比7.2%減、前年比では21.6%もの減少となっています。景気の先行指標といわれる株価指数と建設許可件数の急落は、**RBAが今後もさらに追加利下げを実施する必要があることを示唆しているものと思われます。**



テクニカル

AUD/JPY & NZD/JPY



緑:52日線 青:26日線 赤:9日線

~ AUD/JPY : 上昇の芽 ~

AUD/JPYはバンドの中心線を意識しての動きであり、やや押される展開となっています。70円という水準が重く、押し返される展開となっています。ただ、RCIで見ると、短期線は確かに天井を打っていますが、中期線が下値から回復する動きを見せています。状況的には買いの流れが生まれやすい局面ということが出来そうです。RCIの短期線が下落基調であるため、目先は下値を追いそうですが、下値はかなり限定されそうな状況と言えるでしょう。バンド幅の縮小傾向から考えても、下値のメドは60円前後の水準が予想され、直近の安値水準を突破することは難しい状況という事が出来そうです。

~ NZD/JPY : 下値は堅い~

NZD/JPYはバンドの中心線と60円という2つの壁に阻まれて下落に転じる形となりました。RCIで見ても短期線が天井を打って下落してきており、一方中期線は下値圏での動きとなっていることから、今回の上昇は一時的な調整局面だったと見る事が出来ます。中期線がやや回復の兆しを見せていることは状況の好転を予感させますが、短期線の下値余地がかなり残されていることから、目先は下値を試す展開という事が出来そうです。下値は53円前後に走るバンドの下限が意識される局面という事が出来そうです。直近の安値を突破する可能性は低く、バンドの下限で止まったら再度バンドの中心線を試す展開になるでしょう。

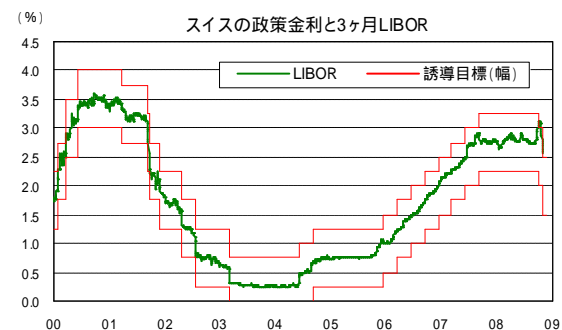


突然の利下げ

スイス国立銀行(中銀・SNB)は、6日の欧州金融市場にて、**定例会合を待たずして**スイスの政策金利である3ヶ月物LIBOR(ロンドン銀行間市場金利)の誘導目標を、これまでの年2.00%-3.00%(中央値2.50%)の水準から、年1.50%-2.50%(中央値2.00%)に50BP(0.50%)引き下げを公表しました。この日の夜、SNBのロート総裁は、テレビのインタビューに対して「今後数四半期はマイナス成長になると予想している。」として「原油価格下落で今後数カ月のインフレ率は大幅に低下するだろう。これは物価安定を損なわずに景気支援のため利下げができるということだ」と述べ、今回の決定に対する自信を覗かせました。

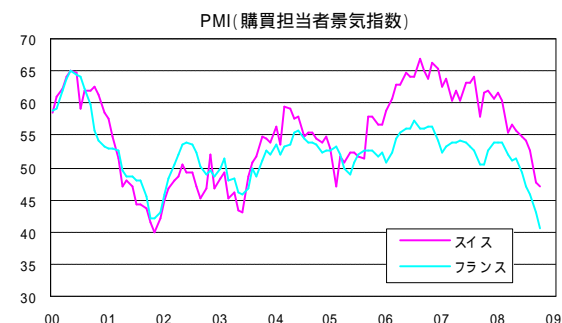
独特の金融調節方法

米国や日本などの主要各国が誘導目標として定めているのは、市中銀行が中銀に預け入れる準備預金を市場から調達するための翌日物金利ですが、一方で、**SNBは3ヶ月物LIBORを一定の範囲の誘導目標に収まるようコントロールするという独特の金融調節の方法を取っています。**LIBORとは、国際金融の中心地、「シティ」を擁するロンドン市場における銀行間市場金利です。特にその中でも3ヶ月物は、金利変動型の公社債の償還条件が「3ヶ月物LIBOR±」という形で表されるのが一般的であるように、企業の資金調達の際、変動金利の代表的指標として参照金利に用いられることが多く、実体経済に近いところにある金利です。そのため、両者の金融政策・誘導目標には大きな相異が存在するのです。



米欧では、実体経済に資金が回らない。

米ドル(USD)などの3ヶ月物LIBORは、それぞれの政策金利と大きく乖離しています。市中銀行が資金を調達する際の金利水準と、一般企業が資金を調達する際の金利が乖離しているということは、米英欧の中央銀行が積極的に流動性(資金)供給を実施しても、実体経済には潤沢な資金が行き渡っていないということを強く示唆しています。**流動性供給や相次ぐ追加利下げによって生じた余裕資金は、結局のところ不透明な形で銀行・金融機関で発生した損失の穴埋めに使われてしまっている**、という背景があるのです。



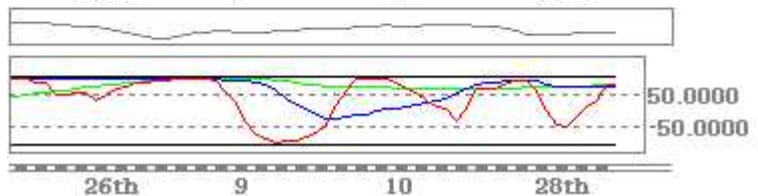
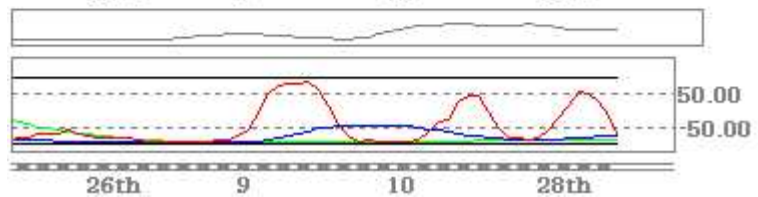
誘導目標が異なる

一方で、**SNBは政策金利として、3ヶ月物LIBORを誘導目標に定めていることから、スイス経済は米国やかつての日本のように、「金融緩和(利下げ)を繰り返しても、一般企業の資金繰りに改善が見られない」という危険性は低い**のではと予想されます。PMI(購買担当者景気指数)は景気の加速・減速の分岐点となる「50」を下回っているものの、隣国であるフランスなどと比較すれば極端に悪化しているわけではありません。今回の利下げはヨーロッパの「協調」を印象付けました。しかし、スイス経済にとっては必ずしも必要ではなかったという可能性もありましょう。



テクニカル

CHF/JPY & USD/CHF



緑:52日線 青:26日線 赤:9日線

~ CHF/JPY : 80円で支えられる ~

CHF/JPYはバンドの中心線で抑えられる展開となっており、ただらと下げる展開となっています。88円が上値として意識される状況であり、形はあまり良くないという事が出来そうです。ただ、現状のバンドの下限は80円であり、価格的にもメドになりやすいポイントという事が出来るでしょう。RCIを見ると短期線が下値圏に入ってきており、上手く底打ち出来れば回復基調に入る事が考えられるでしょう。中期線が下値で這っていることから流れは良くないのですが、バンド幅も拡大していないことから、直近の安値水準を突破して下落と言う展開は考えにくいところという事が出来そうです。

~ USD/CHF: 上値は重い ~

USD/CHFはバンドの中心線で支えられる動きとなっており、堅調地合を維持しているという事が出来そうです。現状はバンドの上限を試す展開となっており、バンド幅を拡大しながらのバンドブレイクと言うことになれば一気に上値を追う展開という事が出来るでしょう。ただし、バンド幅は現状、拡大する動きを見せておらず、あまり期待すべき局面ではなさそうです。RCIで短期線・中期線がともに高値圏で這っていることから流れとしては買い優勢の局面であると言う事が出来そうですが、買われすぎ感もあることから、短期線の動きを見ながらの判断と言うことになりそうです。バンド幅の形からするとバンドブレイクアウトからのバンドウォークは難しそうで、上値は重くなりそうな展開です。



FX といえは...

USD/JPY USD/HUF USD/DKK
 USD/PLN USD/NOK USD/M
 R/JPY EUR/USD EUR/SEK
 AD EUR/AUD EUR/NOK E
 EUR/ DKK
 R/MX N
 P/PL
 GB

USD/CZK USD/CHF USD/CAD USD/ZAR USD/THB USD/SGD
 XN USD/ILS USD/TRY EU
 EU 電話取引 R/GBP EUR/CHF EUR/C
 UR/ ZAR EUR/NZD EUR/HKD
 EUR/SGD EU 24時間 R/THB EUR/TRY EU
 G BP/SGD GBP/SEK GB
 N GBP/ NZD
 P/NOK GBP 安心サポート /HUF
 GBP/DKK GBP /CHF G

人気の8ラインナップ
 主要8通貨ペア

ドル/円では
 通常スプレッド5銭

親身のサポートも
 入金も24時間

口座維持手数料0円
 取引手数料片道10銭

HOXSIN FX

GBP/CAD GBP/
 AUD GBP/CZ
 GBP/HKD GBP
 RY GBP/ZAR AUD
 /JPY AUD/USD AU
 CAD
 AUD
 P/JP
 NZD/U

HB GBP/T
 D/SGD A
 AUD/D K
 /NOK
 YGBP/USD AUD/THB AUD/ ZAR NZD/
 SD NZD/SGD NZD/CHF NZD/CAD NZD/SEK NZD/DK
 K NZD/PLD
 L インターネット取引 NZD/THB
 NZ ZAR C

愛される
 ドル/円では
 通常スプレッド1~3銭

親身のサポートも
 入金も24時間
 心のこもった

25カ国128通貨ペア

口座維持手数料0円
 取引手数料0円
 うれしい

HF/JPY 愛される CHF/SEK CHF/NO
 HF/CZ K CHF/DKK CHF/H
 CHF/HUF C H
 N CHF/SGD Global Standard CHF/TRY USD/S
 SD/HK K
 KK/H DRAGON FX 24 /J
 /PLN DKK/CZK D
 DKK/ZAR CAD/JPY CAD/CHF CAD/DKK CAD/HKD CAD/NOK CAD/SE K C AD/SGD CAD/PLN P
 /JPY PLN/CZK PLN/HUF NOK/JPY NOK/SEK NOK/DKK CZK/JPY CZK/HUF SGD/JPY SGD/HKD SEK/JPY



Hoxsin Weekly Report 注意事項

Copyright (c) HOXSIN BUSSAN Co.,Ltd. All rights reserved.

本資料は信頼性の高い各種データに基づき作成されたものですが、その正確性を保証するものではありません。また、内容に関しては予告なく変更する事があります。本資料の目的はあくまで事実に基づいた情報提供であり、勧誘及び投資判断の提供を意図したものではありません。本資料を使用することによって生じたいかなる損失におきましても弊社は一切責任を負いかねますので、利用および投資判断に関しましては、お客様ご自身でおこなって頂きますようお願い申し上げます。本資料は弊社の著作物であり、著作権法によって保護されています。弊社の許諾なく本資料の全部又は一部を引用又は複製等により使用することを厳格に禁じます。

オンライン外国為替保証金取引「DRAGON FX 24」は、総取引金額の約1～5%の保証金を必要とする(予め差入れた保証金の約20～100倍の金額の外国為替を売買する)取引であり、元本及び利益が保証されたものではなく、為替及び金融指標の数値の変動によっては損失が生じる場合があります。また、相場急変時等には預入金額以上の損失が生じる場合がありますので、ご自身の取引経験・資産状況等を考慮の上でリスク等内容を十分にご理解頂き、ご自身の判断と責任においてお取引下さい。尚、取引手数料は0円で、弊社の提示する売気配と買気配は一致せず、当該気配値の差は通貨及び取引数量・時間帯に応じて変動します。

電話取引「HOXSIN FX」は総取引金額の約3%～約10%程度の保証金を必要とする(予め差入れた保証金の約10倍～約30倍程度の金額の外国為替を売買する)取引であり、元本及び利益が保証されたものではなく、為替及び金融指標の数値の変動によっては損失が生じる場合があります。また、相場急変時等には預入金額以上の損失が生じる場合がありますので、ご自身の取引経験・資産状況等を考慮の上でリスク等内容を十分にご理解頂き、ご自身の判断と責任においてお取引下さい。尚、取引手数料は1通貨あたり10銭(片道)で、弊社の提示する売気配と買気配は一致せず、当該気配値の差は通貨及び取引数量・時間帯に応じて変動します。

【 商 号 】 北辰物産株式会社
【 金融商品取引業者としての登録番号 】 関東財務局長(金商)第295号
【 加入している金融商品取引業協会 】 社団法人金融先物取引業協会
社団法人日本商品投資販売業協会

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町1-9-2
TEL : 03(3668)8110 FAX : 03(3668)4417
URL : <http://www.dragonfx24.com>